

目的 高齢化社会の進むなかで、厚生省は、高齢者が安心して利用できるサービスや商品の質を確保するために、「シルバーサービス振興会」を発足させることを決定した。様々な分野の企業が参加を希望しているようであるが、高齢者向けの快適な被服の開発も望まれることの一つである。そのための資料を得ることを目的に、高齢者の被服購入の現状及び外衣の着衣分析を行い、その結果を報告してきたが、引き続き下着の着衣状況を調査し、分析を試みたので報告する。

方法 (1) 調査対象：名古屋市内の寺2ヶ所を中心に、参拝の目的で集まる健康な65歳以上の男女各100名 (2) 調査時期：季節による傾向をみるために、夏(61年7～8月)、冬(61年12月～62年1月)の2回実施 (3) 調査方法：面接による聞き取り調査 (4) 調査内容：調査当日着用してきた外衣及び下着の種類と着方、下着類の購入・着用時に配慮すること。

結果 (1) 男子は、夏、冬ともに洋服着用者が100%であった。下着は、夏は、上衣に半袖シャツまたはランニングシャツを、下衣にパンツとロングパンツを着用している者が70%以上を占めた。冬は、長袖シャツにパンツ、ズボン下を着用し、中着にチョッキ、セーター類が着用されていた。(2) 女子は、夏は、洋服着用者が100%で、下着にシュミーズを着用している者が62%あった。冬は、洋服着用者68%、和服着用者29%で、後者は75歳以上の者に多かった。上衣の下着としては、洋服、和服着用者ともに長袖シャツを着用している者が多く、中着の着方は様々であった。(3) 下着着用の際し、夏は吸湿性を、冬は保温性を配慮する者の割合が高く、また、男子の配慮する者の割合は女子より低かった。